

平成 29 年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	認知症カフェ・かきつばたの運営	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	社会福祉法人 翡翠会	高齢者支援課

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付決定額）
	439,307 円	521,640 円	300,000 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

認知症患者ご本人とその家族の思いや苦しみを共有し、相談できる場の提供や社会参加の機会を提供することで、「認知症になっても、住み慣れた大網白里市で暮らし続けたい」という願いにこたえる。

○毎月 2 回（第 2・4 木曜日） 11:00～14:00 開催

○小規模多機能型居宅介護支援事業所かきつばた内
大網白里市南横川 1726-6

○近隣住民全てを対象とする

○喫茶・昼食を安価で提供し、憩いの場として事業所の一部を開放

大網白里市地域包括支援センター職員やかきつばたを始めとする居宅介護支援事業所・在宅介護支援センターの協力により、個別相談を実施する。

ボランティアにも積極的に声掛けし、コミュニティの醸成を図る。

○広報活動は市と協力し、市のホームページや広報誌への掲載、公共機関へのポスター掲示や回覧板でのチラシの配布等をおこなった。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

- 事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。
- 協働で行うことでどのような効果が得られたか。
- 住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。
- 事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

○認知症の患者やご家族だけでなく、地域住民の全てが参加できており、「誰もがくつろげるカフェ」として、居場所づくりを通じての相談の場の提供ができた。

○市と共同で行うことで、市民への広報周知が円滑に行えた。本市が管理するホームページや広報誌、公共機関への掲示物等を活用できたことは、多くの市民の目に触れる機会となり、また活動の信頼性を高めることができた。広報の訴求力としては、回覧板へのチラシ封入が最も高く、次いで広報誌、ホームページの順だった。

また、毎回高齢者支援課職員の方が同席してくれたため公共性が高まり、認知症当事者及びご家族も安心して参加できたと感じる。

○在宅で暮らす認知症の方にとって、デイサービス等の事業所を初めて利用する際「心のハードル」は意外に高い。特に男性の方は通常のデイサービスに馴染まないケースも多く、夫を在宅で介護する女性の息抜き・相談の場として利用するケースがあった。またボランティアの問い合わせも増えてきており、満足度は徐々に高まってきていると感じる。

○他市町地域包括支援センターの職員や認知症カフェ運営者の視察も何度かあり、少しずつであるが、周知はされつつある。しかし運営については、本法人が主でなかなかボランティアや市内関係機関等をうまく巻き込めていない状況にあり、次年度以降の課題といえる。

協働による効果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
<input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) 一日平均10名の参加を目標として行ってきたが、初年度21回の開催でのべ261名の参加者と一日平均12.4名の方に参加いただいた。	<input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・認知症施策として認知症介護者への紹介でき、支援の幅が広がった。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・ カフェの運営 メニュー開発・調理・盛付・配膳 ・ 介護保険サービスへの相談 ・ 関係各所への周知（個別） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報に掲載 ・ 高齢者支援課で開催した講演会等で周知 ・ 区長回覧（増穂、瑞穂、大網地区） ・ 開催日に参加し必要あれば相談を受けた ・ 認知症の方とその家族と同行し、気軽に出かけられる場ができたことをPR

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<p> <input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由) 食事については概ね好評で、リピーターの方や弁当の宅配（配食）を希望される方もいた。 </p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 適正であった <input type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由) ・1年目なので、まず市民に認知症カフェやかきつばたの存在を知ってもらうことに重点を置き、周知した。 </p>

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
4月 カフェ開催に向けての準備（キッチンの改修・備品購入等）	3月1日食品衛生責任者養成講習会受講 ～4月末 飲食店営業に伴う改修工事完了
5月 カフェ開催に向けての準備・広報活動 25日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	5月9日食品営業許可申請書届出（山武保健所）→翌10日食品営業許可証交付 5月25日 プレオープン（参加者15名）
6月 8日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 22日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	6月8日 実施（参加者17名） 6月22日 実施（参加者25名）
7月 13日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 27日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	7月13日 実施（参加者10名） 7月27日 実施（参加者17名）
8月 10日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 24日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	8月10日 実施（参加者16名） 8月24日 実施（参加者5名）
9月 14日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 28日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	9月14日 実施（参加者11名） 9月28日 実施（参加者5名）
10月 12日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 26日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	10月12日 実施（参加者13名） 10月26日 実施（参加者18名）
11月 9日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 23日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	11月9日 実施（参加者5名） 11月23日 実施（参加者15名）
12月 14日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 28日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	12月14日 実施（参加者9名） 12月28日 実施（参加者19名）
1月 11日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 25日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	1月11日 実施（参加者12名） 1月25日 実施（参加者6名） 2月8日 実施（参加者14名）
2月 8日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等） 22日カフェ開催（喫茶の提供・介護相談等）	2月22日 実施（参加者11名） ※3月8日 実施（参加者6名） ※3月22日 実施（参加者12名）

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体

- 適正であった
 概ね適正であった
 あまり適正でなかった

(理由)

当初の予定では3月は予定していなかったが、3月も2回行うことができた。年末12月28日や祝日にも開催することが出来たため、徐々に第2・4木曜日開催が浸透してきていると思われる。開催頻度を増やすことも今後の検討課題であるが、現状では月2回の開催が妥当かと思われる。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

飲食店営業を行う上で必要な改修工事・家具等備品購入等、初期費用として財源を活用できた。

また市と協働した広報活動により、地域住民からの問い合わせやボランティアの参加も広がっており、少しずつであるが住民への認知度は高まってきている。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<p><input type="checkbox"/> 強化、活性化した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した</p> <p><input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった</p> <p>(理由)</p> <p>初期投資を抑えられたことで、運営における法人の持ち出し分を減らすことが出来たことは運営上大きい。市の広報資源（ホームページや広報誌）を活用することで、宣伝効果だけでなく、信頼性も高まった。特に回覧板でのチラシ配布は効果的だった。しかし広報については来年度への課題でもあり、さらに推進する必要があると感じた。</p>

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
<p>この事業を活用することで、市・地域住民ともに必要としていた本市初の認知症カフェを立ち上げることが出来た点は非常に大きかった。本法人は平成 21 年から地域密着型事業所「かきつばた」を運営しているが、これまで市内での知名度は低く、仮に単独で認知症カフェを行ったとしても、初年度からここまでの周知・広がりはなかったと思われる。住民協働事業の活用により、事業に対する市民への信頼性・PR が高まったことは効果があった。</p> <p>初年度立ち上げという部分では成功したといえるが、次年度以降の継続性については 2 年目が特に大切だと感じる。さらに市民への周知・浸透を図るための更なる PR とイベント等を行うことによる周知活動が必要だと考えている。</p>

市

・本市の『認知症カフェ』ということで、『認知症カフェ』とは何か、どのような場なのか、場所はどこにあるのか等、周知されていない状況を踏まえ、年間を通じて周知・PR活動を行った。

月2回の開催が定着したことは、団体のご尽力によるものと思う。

・認知症の方と外出は親族等の協力が必要となるため、平日夫婦で出かけることは難しいが、介護施設である「かきつばた」であれば、スタッフが介護に精通しており、穏やかなその空間で家族にとってホッとしたひとときを過ごす事ができ、在宅介護者にとって認知症カフェが「息抜きの場」「安心できる場」となった。

・認知症カフェの存在や、「かきつばた」の場所を知らない方も多いため、引き続き周知・PR活動が必要である。何か催物を時々開催していくことで、市民の目が向くきっかけとなるため、今後検討・計画が必要と思われる。

また、その協働による効果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
<p> <input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) 一日平均10名の目標は達成したためますますといえる。PRについてはさらに進める必要がある。 </p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) カフェが開催されることで活動の幅が広がった。 </p>